

スライド間の意味的關係を用いた プレゼンテーションコンテンツ閲覧方式

友安 航太 王 元元 角谷 和俊

兵庫県立大学環境人間学部

1. はじめに

近年、スライドで構成されるプレゼンテーションコンテンツを共有するサービスが普及している。本研究では、スライド間の意味的關係を可視化することで、プレゼンテーションコンテンツの効率的なブラウジングを支援する方式を提案する。

2. スライド間の意味的關係

スライドのインデントによる階層構造の変化を用いることで、スライド中のあるキーワードに関するスライド間の意味的關係が判定可能である。本研究では、スライド間の意味的關係として、詳細化、汎化、並列の3種類の關係を定義する。図1の左下では詳細化關係の判定例を示している。左のスライドでは2階層目に出現している「カテゴリ興味度」というキーワードに対し、右のスライドでは1階層目(スライドのタイトル)に出現している。このとき右のスライドは左のスライドより「カテゴリ興味度」について詳細に説明している。

3. 意味的關係の可視化による閲覧方式

提案する閲覧方式では、閲覧者の操作に応じて、システムが判定したスライド間の意味的關係を可視化する。これにより、閲覧者はあるスライドを閲覧している際、次にどのスライドを閲覧するかという判断を直感的に行うことができると考える。以下では図1に示している關係の可視化の表現について述べる。

(1)ネットワーク表現

基点となるスライドと他のスライドの關係の有無の可視化にネットワーク表現を用いる。閲覧者が選択したスライドが基点スライドとなり、その中の全キーワードから1つでも關係を持つスライドにエッジが繋がる。また、基点スライド中のキーワードを選択することで、選択したキーワードとの關係を持たないスライドからのエッジが削除される。

(2)スライドの自動リサイズ表現

スライドの自動リサイズによって關係の強調を行う。閲覧者が基点スライドからのエッジを持つスライドを拡大した際、同じ關係を持つスライドの拡大、異なる種類の關係を持つスライドの縮小というリサイズをシステムが自動的に行う。

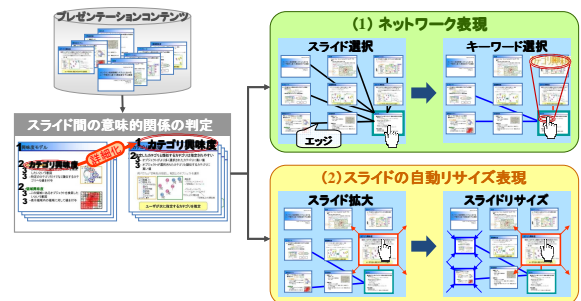


図1. システムの概念図

4. まとめと今後の課題

閲覧者の操作に応じてインタラクティブにスライド間の關係を可視化するプレゼンテーションコンテンツ閲覧方式を提案した。今後の課題としてシステムを実装し、有効性を検証する。